

土塔の弁天・土塔塚

むかし、むかし、平安時代の初めの頃、弘法大師が、二荒山へ向かう途中、川辺の里に泊まったそう。その夜、夢の中に弁天様が現れて、「我は、百々塚権現の近くの池に住む白蛇である。池のほとりに、弁財天をまつるがよい。」と言ったと。

あくる日、大師は、百々塚の里を訪ねたと。そして、そこにある広い池の水をかき回すと、白蛇がうねうねと動くのが見えた。昨夜の夢は、正夢だった。そこで、大師は、村人にすすめて、弁財天をまつらせた。

池には、おびただしい数の羽虫の群れが、竜巻のように、渦巻き立っていた。村人たちは、口々に、「羽虫が沢山わいて、作物を荒らすので困ります。どうか、助けて下さい。」と大師にお願いした。

そこで、大師は、村人たちに、「池を汚すから羽虫もわく。まず池を綺麗にせよ。」と命じた。

村人たちがゴミを拾い集め、池の水が澄んだ時、大師は、錫杖を鳴らして祈った。すると、一団の羽虫が雲のように飛び去っていった。村人たちが、その後を追うと、羽虫が山のように積み重なって死んでいたそう。

それを見て、大師は、「この上に、塚を築け。」と言った。村人たちは、一日かけて、もっこを百杯運んだ。すると、大師の法力で、一日一夜で大きな塚が出来たと。

もっこ百杯の塚だから、十十塚と呼んだ。それが訛って、土塔塚になったそう。

おしまい。